

# あいち病害虫情報 最新情報

平成28年 5月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ムギ類の病害

5月上旬及び中旬の調査では、各地でムギ類赤かび病の発生を確認しており、発生量が多いほ場もあります。5月9日から11日のまとまった降雨で発生量が増加すると予測されます。降雨前に農薬による防除を実施していない場合は速やかに行いましょう。収穫期が近づいているので、農薬を散布する場合は使用回数や収穫前日数に留意し、飛散防止にも十分注意しましょう。

## 果樹の病害

果樹全般に生育が昨年より早くなっています。また、降雨が続くと病害が発生しやすくなりますので、天気予報に留意して、適期防除を心がけましょう。

ナシ黒星病の発生が多い状況です。5月9日から11日にまとまった降雨があったため、今後も発生が多くなる可能性があります。発病を確認したら、ただちに防除しましょう。

降雨の影響で、モモせん孔細菌病の増加が懸念されます。枝病斑は見つけ次第切除して適切に処分し、防除しましょう。

ブドウ黒とう病は、梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し、発病が増加します。前年発生したほ場では、防除を徹底しましょう。

ブドウの生育は、長久手市では、昨年より2日早まっています。ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。開花期の重点防除時期を逃さないようにしましょう。

## 果樹のカメムシ類

果樹を加害するカメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシについては、現在のところ予察灯及びフェロモントラップでの誘殺数はおおむね平年並の状況ですが、新城市の山際のウメ園には徐々に飛来するようになってきました。越冬密度がやや多いので、今後、気温の上昇とともに活動が活発になり、平坦部の果樹園へも飛来するおそれがあります。特に20℃以上で風がない夜に行動が活発になりますので、園内への成虫の飛来状況をよく確認し、飛来を確認したら直ちに防除しましょう。

## 果樹のカイガラムシ類

果樹のカイガラムシ類の防除適期は第1世代1齢幼虫発生ピークです。ナシマルカイガラムシ及びフジコナカイガラムシの有効積算温度を利用した第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、表1及び2のとおりです。

表1 ナシマルカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	新城	豊橋	伊良湖
本年	5/28	5/29	5/23	5/23	5/25	5/29	5/25	5/30	5/26	5/26
前年	5/28	5/29	5/24	5/25	5/24	5/29	5/27	5/31	5/28	5/28
前年差	±0	±0	1日早	2日早	1日遅	±0	2日早	1日早	2日早	2日早

表2 フジコナカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	新城	豊橋	伊良湖
本年	6/2	6/4	5/29	5/28	6/3	6/3	5/31	6/4	5/31	6/1
前年	6/2	6/3	5/28	5/30	5/31	6/2	5/31	6/6	6/2	6/2
前年差	±0	1日遅	1日遅	2日早	3日遅	1日遅	±0	2日早	2日早	1日早

注) 表1及び2ともアメダス平均気温から予測。5月15日までは本年実測値を、それ以降は平年値(大府、豊橋は前年値)を用いて計算。前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

平成28年5月2日に発表した「ナシマルカイガラムシ情報第1号」及び「フジコナカイガラムシ情報第1号」に記載した予測日より1から3日早くなっている地点があります。防除適期を逃さないようにしましょう。

## 野菜とキクの病害虫

長久手市に設置している白色粘着トラップでは、4月下旬以降アザミウマ類の誘殺量が増加し、平年より多くなっています。ほ場をよく観察し、防除しましょう。

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
  - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
  - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
  - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
  - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820